

# ノーモア・ヒバクシャ通信 第37号

発行 2017年11月9日

ホームページ <http://www.kiokuisan.jp/>  
継承ブログ <http://keishoblog.com/>  
フェイスブック <https://www.facebook.com/kiokuisan>  
ツイッター <https://twitter.com/nomorehibakusha>

発行者  
NPO 法人 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会  
〒102-0085  
東京都千代田区六番町 15 プラザエフ 6F  
Tel/Fax 03-5216-7757 (直通)  
Email [hironaga8689@gmail.com](mailto:hironaga8689@gmail.com)  
郵便振替口座 00110-5-292881  
口座名義 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会

## ★もくじ

- I. ICANのノーベル平和賞授賞式を前に
- II. 第3回理事会のご報告
- III. 資料庫部会から
- IV. 会費納入、寄付のお願い

## I. ICANのノーベル平和賞授賞式を前に

今年のノーベル平和賞は、核兵器廃絶国際キャンペーン「ICAN」が受賞しました。核兵器禁止条約採択に果たした貢献が評価されたものです。7月7日の国連での核兵器禁止条約の採択につづく、朗報です。

12月10日の平和賞授賞式を前に、被爆者の証言や訴えがどのように世界を動かしたのか、そして、これから若い力との協働をどのように発展させていくのかなど、ともに学び、考え合いたいと思います。ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会の主催で、下記のパネルディスカッションを開催します。

詳しくは同封のチラシをご覧ください、ご参加をお申し込みください。

### 記

■日時: 12月2日(土)午後2時半～5時

■会場: 東京・四ツ谷「主婦会館 プラザエフ」9階「スズラン」

### ■パネルディスカッション

「“核兵器なくせ”にノーベル平和賞 世界を動かした被爆者の声と若い力をさらに」

#### パネリスト:

川崎 哲氏: ICAN国際運営委員、ピースボート共同代表

直野章子氏: 広島市立大学広島平和研究所 教授

木戸季市氏: 日本原水爆被害者団体協議会 事務局長

■参加費: 500円

## II. 第3回理事会のご報告

岩佐代表理事が開会挨拶を行ない、これまで私は日米両政府の戦争責任、戦後責任と言ってきたが、原爆被害に対する認識の非人道性、犯罪性を追及していかなければならない。核兵器の「究極的」廃絶をいう日本政府は自らは責任を負わず、未来の人たちに廃絶を任せる。こんな無責任はない。国の政策転換を求めていきたい旨、強調しました。

今回の理事会は冒頭で、I C A Nのノーベル平和賞を受けて情報を交流しました。歴代ノーベル平和賞受賞者に関する常設展を開いている「ノーベル平和センター」より、被爆の実相に関わる資料を提供してほしい旨、協力要請があった経過が報告されました。当会関連の資料として、すでにDVD英語版「原爆は 人間として死ぬことも 生きることも ゆるさなかった」(被爆者が証す原爆の反人間性シリーズ1)を贈呈しました。

被団協からは、原爆パネルのほか、85年原爆被害者調査の証言集など英訳された資料、情報の提供を申し出ることをしています。

またI C A Nの受賞を受けて、この機会に被爆者運動の貢献、役割を考える企画を12月2日に東京で行うことを確認しました。

報告事項及び審議事項、主な討議概要は以下の通りです。

(報告事項)

### 1. 「未来につなぐ被爆の記憶プロジェクト」の報告

首都大学東京・渡邊研究室に依頼してきたアーカイブ化のためのシステムが整い、10月24日アーカイブ化作業のプレ実施を行うこととしました。トライアルを重ねながら修正し、今年度にめどがつけば来年度から全国的に取り組むこととなります。

### 2. 被爆70年調査の報告書について〔詳細は別紙参照〕

報告書は、10月11日被団協代表者会議で公表されました。強調したいのは、回答者の9割が原爆被害は「受忍できない」と答えていること、これから報告書を活かした継承のプロジェクトを考えていきたい。被爆者運動から学び合う学習懇談会でも調査結果に基づく報告を考えている。

### 3. 「被団協文書の概要と若干の考察」の報告

2013年から愛宕資料室で被団協運動史料の整理作業を指導しておられる、松田忍先生(昭和女子大学・近現代史)が9月30日、空襲被災者運動研究会の公開研究会で、標記の報告をされました。文献から被爆者運動を評価して、戦後史に位置づけたいという問題意識をもたれたようです。継承する会としても被団協と協力して、松田先生にご報告いただき被団協運動史料の意味を学び合う機会をつくる予定です。

休憩中、第51回原爆忌全国俳句大会（9月10日）の実行委員長・安齋育郎氏より、岩佐幹三氏（代表理事）の献句に「実行委員長特別賞」表彰状と京都新聞社からの楯が贈呈されました。

岩佐氏の献句： “母唄う経の声背にし逃げ去りぬ”

（審議事項）

#### 1. 「被爆者の会が発行した体験記等のWeb公開について～基本姿勢～」

収集してきた資料のデジタル保存、Web公開について、各都道府県・地域の被爆者の会が発行した手記・体験記集から優先的に取り組むこととし、公開に向けて考えられる課題と基本姿勢について検討してきました。被団協内の手続きを見守りつつ、意見や異論が寄せられたときに丁寧に対応できる態勢を整えることなどを確認し、基本的に了解しました。

#### 2. 「継承センター設立のための長期計画委員会について」

①位置づけ、②委員会構成、③運営、④進め方を説明し、5、6回の会議をへて今年度中に結論を得たい旨、提案し、基本的に了承を得ました。

#### 3. 財政状況と会員拡大、寄付金募集について

会費や寄付金収入が予算を大きく下回っており財政状況が大変厳しいこと、賛助団体をはじめ正会員、賛助会員の拡大に協力してほしい旨、強調しました。長期計画委員会での検討とともに、当座の取り組みを強めたい。

### Ⅲ. 資料庫部会から—— 故・肥田舜太郎さんご遺族より資料の寄贈

10月30日、今年3月に亡くなられた肥田舜太郎さん（当会呼びかけ発起人、医師）のご遺族より、大量の書籍・資料（段ボール21箱分）をご寄贈いただきました。

広島で被爆した医師で、長年被爆者の診療に携わりながら、1970～80年代以降の被団協の国際活動の先頭に立って世界に核兵器被害の反人間性を語り広げて来た肥田さんならではの貴重な資料が遺されています。

ご自身の数多くの著書や講演録をはじめとして、被爆者医療・低線量被曝に関する書籍・研究論文（被爆直後の都築正男博士の論文や外国人研究者のものも）。各国で草の根の平和運動と交流してきた報告書・記録メモ・写真など。さらに、交流のあった作家・林京子さん（長崎被爆、故人）や大江健三郎さんの著書、詩人・御庄博美さん（広島被爆、広島協同病院の医師、故人）の詩集。82年に埼玉協同病院に入院・治療した被爆米兵ジョン・スミザーマンさんの記録ファイルなど。

チェルノブイリや福島原発事故に関する書籍や研究論文も多く、被爆者運動関連では、埼玉のしらさぎ会の会報が1号から最近号まで、100号単位できちんと製本して保管されているなど、忙しい先生がいつ整理されたのかと思うほどの整理状況にも驚かされました。

継承する会としてまだ余り手のついていない分野の資料も多く、ご寄贈に心より感謝申し上げます。

#### IV. 会費納入、寄付のお願い

木枯らし1号が吹き荒れましたが、皆さまにはいかがお過ごしでしょうか。

日頃よりこの会の活動と運営にご理解とご参加をいただき、ありがとうございます。

お蔭さまで、設立から5年を経て被爆者の皆さんの活動記録や資料の収集・整理が大きくなり、これから本格的なアーカイブ構築に取り組むこととなります。この会の財政を健全に運営することが求められている所以です。しかし、現在の収入は、予算を大きく下回っているのが現状です。実情を察していただき、年度の会費を納めていただくとともに、会員拡大や寄付金にご協力いただきますよう心よりお願い申し上げます。なお、振込用紙を同封しましたので、ご活用ください。

この間の取り組みを簡潔にご報告し、ご協力、ご支援をお願いする次第です。

「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産の継承センター設立構想」のもと、南浦和資料室では日本被団協関連資料、各都道府県被爆者の会の活動記録や証言集などの収集・整理、書籍・冊子類（0：目録・戦災誌、年史、1：手記・体験記、2：原爆文学・芸術、3：被爆者調査・研究、4：被爆者運動史、5：核兵器・原水禁運動、6：継承（平和教育ほか）、7：空襲・沖縄・アウシュビッツ等の8ジャンル）については、目録整理の目途がつきつつあります。そのうちから被爆体験の手記・体験記を対象にして、日本生協連、首都大学東京の渡邊英徳研究室など、との共同で「未来につなぐ被爆の記憶」プロジェクトを立ち上げ、全国どこからでも参加できる「参加型デジタル・アーカイブ」の制作をめざしています。これは、被爆の体験を後世に遺すことを目的にインターネット上に「被爆体験の資料室」を作る活動として、全国各地での取り組みとして展開されることを想定しています。すでに富士ゼロックス等より高度なスキャナーをご寄贈いただき、電子化作業がはじまっています。データ化、アーカイブ化をすすめて、活用プログラムを作成します。

また、収集資料全体の本格的なアーカイブ構築に向けては、専門家の助言、協力が不可欠です。アーカイブ学の専門家を訪問し、歴史資料の現状やデジタル化に伴う問題点、歴史資料における文脈の重要性、資料整理の進め方、個人情報や著作権についての考え方など、丁寧な示唆を受けました。収集した資料やこの会の活動のインターネット上の情報は、国立国会図書館（関西館）のインターネット収集保存事業の対象として将来にわたって保存していただき、一般に公開されることとなります。

これからが資料の活用を含む「継承センター設立」の本格的な取り組みとなります。そのため、長期計画委員会を設置して長期プランの作成と推進を図ることにしています。

引き続き、ご支援下さいますよう重ねてお願いいたします。

以上